2016年(平成28年) 2月1日発行

発行者: 大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部: 大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457 (編集責任者: 広報部萱間)



一人ひとりが講師として指導を

JOFI 大阪の会員の皆さま、平成27年も無事故で終了できました。さまざまな行事に大変多忙な思いをさせた方も多いと思います。ご協力誠に有り難うございました。

皆様のおかげをもって、全国でも最先端を行くインストラクター機構として活動を続けております。

大阪湾は、現在、異常ともいえる高水温で冬を過ごしています。大阪湾口の谷川沖で 15.5℃、表水温と水深 10m 下は同じ温度です。ということは潮の反転はないわけで、底潮への酸素補給はないということになります。加太周辺でタイや大アジの食いがしぶいのも当然でしょう。一方大阪湾奥でも淀川河口では表水温 12.5℃、しかし水面下 10m では 13℃以上もあって、例年よりかなり高いとはいえ、冷たい真水が底潮と反転していて酸素補給も順調です。チヌの食いがよく、まだアジが残っていたり、タチウオが釣れたりするのも当然かと思われます。

こうした高水温は、ある一部の人々からは、地球温暖化の例としてあげられますが、実はそれよりもエルニーニョの影響による黒潮本流の蛇行のほうが大きな原因でしょう。だから、寒波のあとも、ほとんどかわりなく、しかも湾の南部では表面と水深 10m の水温に全く変化がなく、したがって潮の反転がないまま溶存酸素が補給されない状態の総規模な水塊が無数に散らばっていて、そんなときに出くわすと、水温が高いのに釣れないという日になります。いよいよ水質調査をしたうえで竿を出さねばボーズを食らうことになりそうですね。

ところで今シーズンの新しいテーマとして、「おとなのための釣り入門」を推進したいと思っています。JOFI のみなさんがだれでもすぐに講習会の講師を努められるよう、あらかじめ研修会を実施し、JOFI 流の理論釣り学をわかりやすく話せるようになっていただけたらと思うのです。

もちろん、みなさんはそれぞれの釣りに自信を持っておられる経験豊富なベテランであります。そんな人々に「あえて釣りを教える」ということではなく、テキストをそのまま解説するばかりでなく、聴講者の気分をかえたりするためにアドリブでエピソードを織り込むこともままあるはずです。

來田仁成 (大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

そんなとき、つい、自己流が顔をだし、それが少し現実とずれていたりすることもありがちです。そうした問題をみんなで研修し互いに注意し合うことで、隙のない講習を作り上げていく、そうした努力をいままで怠ってきたように思います。また、釣り界で現在起きている諸問題について、それぞれの意見を交わし合い、対策を考えるという機会もあまりなかったはずです。

たとえば神奈川県の平塚漁港では朝7時から夕方5時までは開放されていても、夜間は危険なので釣り禁止となっており、先日タチウオの夜釣りに入った釣り人7人が逮捕されました。この問題などせっかく JOFI があるのですから、地元漁協や警察と事前に協議する機会がありさえすれば、ここに立ちいたらなかったと思われます。

こうしたことを話し合うための集会も開かれていません。 というよりも、研修というときまって集まりが悪いのです。

ことしは、あらためて「相互研修」というテーマを提案したいと考えています。

よろしくご協力をお願いします。



報告1

かしわらフィッシングスクール (H27-5/30、6/13、6/27)

5月30日、6月13日、教室にて座学。6月27日、大和川においてキャスティング練習。保護者の何人かも一緒に参加。参加者数子供20名。(報告:森脇)





報告2

大阪南港魚釣り園護岸「魚拓教室」(第27-775、8/2)

7月5日、曇り時々小雨がパラパラ降る天候の中、大阪南港魚釣り園護岸にて「魚拓教室」開催しました。何日か前から南港大和川筋まで釣り場が開放されました。その南端では、早朝のみガシラが数匹釣れていました。魚拓教室では、サバ、アジ、チヌの魚拓を作成しました。8月2日、天気が良く暑く少々グロッキー! 釣果はぼつぼつ。サバ、イワシ、サッパ、アジ、ガシラ、タコが上がっていた。サバが多く魚拓が撮りにくい。また用紙がかたく伸縮性がなくむつかしい。(報告:辻)



報告3

泉南市秋の環境美化運動「男里川ハゼ釣り教室」(H27-9/6)

9月6日、伊勢吉にてイソメを購入し、男里川へ向かう。5時 30分頃JOFIメンバーが到着、準備を始めた。少し雨が降ってきたが、

小学年80名、保護者30名、関 係者 20 名、指導員 16 名、計 146 名が集合。8時開会。主催 者挨拶のあと釣り指導など行な う。釣りを始める前に美化活動 を実施。全員で 90 リットルゴ ミ袋5袋分を回収した。 班分け をして、ライフジャケットを着 け、竿・リール・イソメを各自 もらい釣り場へ移動。釣り場で JOFI メンバーが釣り指導。回り の安全確認をしながら投入。釣 り開始そうそう 13cm ぐらいの ハゼが釣れ、まわりの小学生も がぜんヤル気を出していた。本 部テントでは辻さん中心に魚拓 を作成した。しかし次第に雨が ひどくなってきたので、体調を

配慮して 10 時に釣り終了とした。釣れた魚はマハゼとコトヒキ。 1~3 位が表彰された。(報告:高木)











報告4

全国縦断チャリティつり祭り (H27-9/22)

9月22日、舞洲緑地シーサイドプロムナードにて全国縦断チャリティつり祭り大阪支部大会を NBC 全国縦断チャリティつり祭り実行委員会主催で開催。参加者143名、スタッフ20名、釣り指導員13名。ジュニアの部は1位130g、2位85g、3位55g。一般の部は1位335gのイシダイ、2位が240g、3位が80gなど。この様な親子で楽しめる釣り大会が実施され、釣りをしない人達も含め、自然環境について話し合える機会が増えてほしいと思います。(報告:物部)



報告5

寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室 (H27-9/26)

9月26日、うっとうしい雨が前日まで続いていましたが、当日は 天気に恵まれ釣りを堪能しました。本年度の参加者は、スクール生 と保護者を含め24名と応援の摂南大学生3名、スポーツ少年団か ら5名で総参加者は42名。

今回初めて南港魚釣り園護岸で実施しましたが、来園者の一番多い土曜日であり、場所の確保とエサの準備などで現地に 6 時に8名が集合し、2 名はマイクロバスの中で釣り教室と釣り具の移送を担当。現地に到着後、釣りの基本的な事項を説明し、11 時 30 分から班別に分かれ釣りを開始しました。しかし、アジやイワシなど魚の反応はなく、時間が過ぎて行きました。インストラクターから「上

げ潮になれば釣れるよ」とのアドバイスを受け、子供たちも忍耐強く待ちました。当日の満潮は午後 17 時 53 分でしたが、秋の時期、暗くなるのは早く、17 時を過ぎたころからアジが釣れだしました。子供たちも大声をあげて楽しんで1人で10 匹以上釣れている子供いました。終了時間までには子供たちは全員釣ることができました。

再考することは、事前に釣れる時間を調査する必要性と、少し暗くなる状況で釣りを継続するべきかどうかです。また、自然の環境や現在の海の状況などを含め子供たちとともに学ぶ方法を考えたいと思いました。 (報告:物部)









ボーイスカウト富田林第 2 団 カブ隊釣り教室 (H27-9/27)



9月27日、ボーイスカウト富田林第2団カブ隊的り教室を泉大津市なぎ望朝に関で開催しました。早朝に降っていた雨も回復し、カブ隊20名を対象に釣り日は時を行ないました。当日は下り潮にも関わらず、イワシが釣れ、子供たちは笑顔いっぱい大満足の様子でした。全体で150~200匹多よびでき、アミエビ残り少なくなったので、正

午前に納竿として教室を終了しました。子供たち全員が生き物に触れることができ、意義のある釣り教室だったと思います。参加者 25 名、釣り指導員5名。(報告:塩見)





報告7 ボーイスカウト大阪連盟なにわ地区釣り章考査講習会 (H27-9/27)

恒例になりました「日本ボーイスカウト大阪連盟なにわ地区釣り 章講習考査会」を 9 月 27 日に実施。会場は岬町立淡輪公民館~淡 輪港。受講者14名。釣り章考査会の目的は「自然と人の協調と釣り に関する知識」を正しく理解、実践できるようにすることです。

釣り針を糸に結ぶ実技では、苦労している受講生がみられました。 「道具にたよらない魚の獲り方」「アウトドアで魚の調理の仕方」「魚 を手だけでさばく方法」などいつもの釣り教室は違う内容もありま す。机上講習は幸いなことに全員が合格とスカウト委員から聞くこ とができ一安心できました。

15時からは淡輪漁港で実釣試験。ライフジャケットを着用した後、

釣竿に仕掛けをセット、実釣試験の開始。漁港は右側の堤防が左側 に延びて四角いプールのようになっていて、釣れない不安が脳裏を よぎりました。やはり釣れません。時間が経過して、ウルメイワシ がボツボツ釣れだしました。秋の月が照らし始めてたころ、撒き餌 の効果が出てようやくアジが釣れ、18時からアジの爆釣がはじまり ました。終了時間を 15 分延長し 18 時 15 分としました。あっとい う間に全員がアジを釣り上げることができたとスカウト委員長から 話があり、釣り場清掃を全員で行ない、閉会式で「釣り章」と「釣 り検定初級講習修了書」を全員に渡し終了しました。(報告:石川)









報告8 秋のみらい・のぞみ 園釣り 教室 (H27-10/18)

弘済みらい・のぞみ園釣り教室を 10月 18日、なぎさ公園で開催 しました。当日は少し暑いぐらいの釣り日和で、たくさんの家族連 れが来られていました。朝一番、実釣前の恒例のお勉強。安全と釣 りのルール、危険な魚についての座学。その後、各自指定の釣り場へ。 さて何が釣れるか? 子供たちもワクワクドキドキ…今日は全員サ ビキ仕掛けで釣りに挑戦です。1分もしないうちにイワシが針に鈴 なり状態になり、あちらこちらで大歓声。毎年魚がなかなか釣れな

くてやきもきするのに今年は針から魚を外すのに大忙しでした。休 憩場所ではインストタクターがてんぷらとカラアゲを準備。今日は アジとアユ、お芋を持参し、それと本日釣れた魚をいただきます。 子供たちから大好評でした。昼食はさみ午後の釣りもイワシの入れ 食いで、当初予定の終了時間を 1 時間ほど短縮し2時過ぎに終了し ました。(報告:田隅)









大阪府民ファミリー海釣り大会 (H27-10/25)

10月25日、舞洲シーサイドプロムナードで大阪府民ファミリー 海釣り大会を開催しました。参加者は97名、スタッフ25名、釣り 指導員6名。主催は日本釣り振興会大阪府支部。後援JOFI大阪ほか。









報告10

みらいずバリアフリー釣り教室 (H27-11/7)

11月7日、障害を持つ人たちにも安全に魚釣りを楽しんでいただこうと、NPO法人みらいずさんが企画した大会に、本年もインストラクター6名で参加。会場の淡輪ヨットハーバーは魚釣り禁止ですが御厚意でこの催しのためヨットの出入りのない面を開放して下さっています。参加者は付添い等を含め47名。釣り方はサビキ釣りで、例年他の会場に比べ釣果は良



いのですが、今年はことのほか良型のアジ、サバ、イワシがたくさん釣れ、それにグレ、スズメダイ、フグなど参加者たちの喜々とした笑顔の絶え間がありません。一番忙しかったのは釣れた魚をカラ揚げや刺身に捌く人たちで、また、その魚の美味かったこと。揚げても揚げてもすぐなくなり、魚を集める人も大喜びでした。私たちも何か癒されるような一日でした。(報告:塩見)



八幡市釣り教室 (H27-9/13)

9月13日に行われた「やわたフィッシングスクール」は、八幡市教育委員会と全日本釣り団体協議会インストラクターが、釣りの楽しさを知ってもらいたいと開催し20年になります。午前中は男山のさくら小学校で「釣りの基本」と「マナーとルール」「水辺の自然環境の大切さ」などを話ました。午後からは志水農家組合釣り池センターに移動してコイ釣りに挑戦。釣りが初めての子どもも多く、インストラクターの出番です。釣り針にさなぎ粉やメリケン粉、海藻を練りこんだエサを付けるところから協力します。この日は魚の

動きがいいからよく釣れると思っていましたが、釣果は上々で40~50cm前後のコイが次々と釣れ、全員が歓声をあげて楽しまれていました。(報告:吉川幾久雄/写真:京阪タイムリー社)



報告12

公認フィッシングマスター資格取得講習会 (H27-12/5~6)

平成27年度の公認フィッシングマスター資格取得講習会が12月5~6日大阪で開催されました。受講は近畿圏をはじめ静岡、熊本からも申込者があり7名。

一日目の講義は「アマモ場再生と地域の海の回復」岩井克己講師 (NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター) から始まり、上甫 木昭春講師 (大阪府立大学大学院生命環境科学科教授) の「我が国 における臨海海域の環境と生き物のおかれた現状について」、藤林栄 藏講師 (NPO 法人大阪府海域美化安全協会専務理事) による「漁業 法など遊漁に関する法令と漁業調整規則の知識」、來田仁成講師 (全日本釣り団体協議会副会長理事) による「遊漁と釣りに関連する諸 問題と立ち入り禁止に関連する事項の現状と安全対策」という内容。

二日目は、中西敬講師(近畿大学農学部水産学科講師)「海洋環境 汚染・特に大阪湾、瀬戸内海における諸問題について」(講義はユー モアに富み、初めてお聞きした「環境活性コンクリート」について 受講者は特に興味をお持ちのようでした)。最後の講義として、山田 源太講師(水産庁資源管理部漁業調整課沿岸遊漁室釣り専門官)か ら「遊漁関連法規と諸外国の法規」と題し、現在釣り業界などから 行政に提出されている要望書の内容と漁場利用協定の各地域の情報 や特定外来生物についての考え方などについて幅広い観点から行政 の考え方の話がありました。二日間の講義を通じて、遊漁のルール、 将来の自然環境を考えた遊漁者が一人でも増えるよう、マスターと なられる新しいお仲間の方とともに努力していきたいと思いました。 (報告:物部胤三)











報告13 海まつり阪南 ~漁師さんとふれあう秋の一日~(フォーラム) (H27-11/8)

11月8日、あいにくのお天気でしたが「海まつり阪南」イベントを阪南市尾崎の地域交流館にて開催しました。参加者は150名+スタッフ30名。阪南の自然環境、漁業、人とまちの魅力を様々な角度から紹介し、体験していただくように企画しました。

午前中に実施した「里海ウォーク」では、水産資源を育成している自然環境について学んでいただくという趣旨で、4コースの体験ツアーを行ないました(報告14)。

「魚タッチプール」のは、活きた魚を各漁協から集めてもらって展示し、珍しいカニ等もあり子供たちに大好評でした。

午後の部フォーラムは「はんはんの海をまもろう展」の紹介から始まりました。大阪湾の環境保全に努める団体、阪南市の文化財、市民ギャラリーなど。JOFI 関係からは高渕諒さんの「箱の浦の投げ釣り今昔」、来田仁成さんの「大阪湾の原風景 波有手の海から」を展示しました。

続いて「はんなん海の幸大試食会」を実施。今回は尾崎から「ハモすき」、西鳥取から「タコめし」、下荘から「クマエビのチリソース」

を試食品として出していただきました。

試食会の次に「自然海岸からの報告」を行ないました。解説は環境省自然公園指導員の田中正視さん。発表は阪南市に移り住んでいる 3 人で、釣具メーカーを立ち上げた武田栄さん(題目「阪南の海と魚」)、阪南干潟友の会の三宅壽一さん(「阪南干潟の希少生物たち」)、海遊館の学芸員、石川恵さん(「スナメリが棲む海」)。貴重な大阪湾の自然環境の話をしていただきました。

イベント全体のまとめとして、漁業と海に関するシンポジウム「組合長に聞こう!」を行ないました。漁業への素朴な疑問から、将来の漁業、大阪湾のことなど、参加者の生活につながる質問が多く、組合長からの答えだけでなく、釣り人や漁師さん、市長からの答えもあり、有意義なフォーラムを開催できたと思います。

苦労の多い 3 年間でしたが、ようやく大阪湾の将来につなげる土台ができたと思います。今後明確な目標を持って、猟師さんと力を合わせ、頑張っていきたいとと思います。(報告: 萱間)



















はんなん里海ウォーク (環境学習会) (H27-11/8)

里海ウォーク1「箱作の漁業見学コース」

下荘漁協の漁場を見学し、組合の会議室で漁師さんとの交流会を行ないまし た。その内容が面白いので記録しておきます。まず、海水温とタコの活性につ いて質問がありました。漁師さんの経験では「タコは暑いほど出てくる」そう ですが、釣り人からはあまり暑すぎると苦潮の影響もあるのか釣れなくなると の声が。「へぇー、反対やなぁ」と漁師さん。「底引網で獲れる魚種は昔と変わ りましたか?」の質問には、まず「獲れる魚の時期の遅れ」を指摘。「獲れる ときはドカッと獲れるけれど、長続きしなくなった」「関空で明石からの潮が 入ってこないのも影響しているかも」「ガッチョなんかも昔はなんぼでもおっ たのになあ」「オニオコゼも増えているけれど、あれはあんまり売れへんねんな。 うまいねんけどなぁ」「シャコなんかは、今ではほんまに小さいのしか獲れない」 など。「漁師になるにはどうすればいいですか?」という質問。なりたければ まず漁協の組合員にならなければいけないそうです。組合員になるために3年 は修業が必要。最近は船も高くて小さい船で500万円くらい、底引き船にな ると 4000 万円くらいするそうです。他に、イワシは水深が 10m以上ある埋 立地の深い所ほど入りやすいことや夜光虫が多いときはアジとかも多いこと、 藻場が少なくなって昔ほどアオリイカがいなくなったことなど、魚という共通 の話題を通して大いに盛り上がりました。(報告:小川)



里海ウォーク 2「西鳥取の漁業見学コース」

西鳥取の漁業見学コースはタコ漁の見学をしました。前日に仕掛た籠を次々と上げていきます。籠を上げてタコを取り出し、餌を仕込む一連の作業は非常に手際よく行われます。そして、また籠を漁場に落とします。一般の食卓に上がるあのタコが獲れる様はなかなか見る機会がありませんから貴重な体験になりました。

漁業見学のあと、漁港に戻って漁師さんのお話を聞きます。鳥取の荘は古くからタコ漁が行われていたようです。タコの天敵のアナゴも昔はたくさんいたようです。昔はアナゴが籠が重たいほど入ったとのことですが、こちらは減ってしまったとか。それで天敵の少なくなったタコが、増えやすい環境なのかもしれなせん。また、壷から籠になりだした頃よりタコが増えたとのことです。今回も上げた籠に残った餌を海に捨てられていたのですが、それを餌にしてタコが増えるのではとおっしゃっていました。(報告:北谷)







里海ウォーク3「尾崎の漁業見学コース」

朝から小雨模様でしたが、参加者全員、集合時間までに集まりました。6歳の男の子から70代半ばの女性までとバラエティ豊か。各自持参のレインウェアを着込み、漁船乗船に備えてライフジャケットを着用してから、漁港に向けて出発。尾崎漁港までは徒歩で15分程度。道中には、昔は村役場だった旧い建物や戦前の佇まいを残す町並みの他にも、神社やお寺などの見どころが多く、漁港への到着は予定時間を少し回りました。

漁港入口で尾崎漁業協同組合の佐藤組合長に迎えられ、いざ漁船へ。今日はノリの養殖棚の見学の予定です

が、「関空も見に行こうや!」と。天候などを考慮し、全員が一度に乗船できる大きな船を用意して、参加者に少しでも喜んでもらいたいとの気配りを感じました。

ノリ棚と関空を見学して帰港。次は地元の海産物で水産加工業を営んでおられる工場の見学です。1 軒目は、泉南のわかめとタコの水産加工品を製造されている「和」(なごみ)さん。泉ダコの加工について大まかな手順を教えていただきました。内蔵を抜きぬめりを塩で取り除いたタコは大釜の塩水で3分ほど茹でます。釜から上げてすぐに氷で冷やすのがポイント。プリプリの歯ごたえはここから生まれるのだとか。さらに、ワカメも試食。泉南の海は波が穏やかで、葉がやわらかく育つのが特長だそうです。2 軒目は、地元で獲れたハモをブランド化を進めておられる「のぞみ」さん。最新の骨切り機は、この日はフグの加工に使用中。ハモの季節はそろそろ終わりで、これからはフグの加工がメインになるそうです。大きなテーブルにはハモ鍋用に湯通しされた、真っ白できれいなハモの切り身が。味付けもなにもされていない身を食べた方は「プリプリした歯ごたえでおいしい」と驚かれていました。(報告:室井)







<平成27年度水産多面的機能発揮事業(後編)>

里海ウォーク4「阪南の自然海岸見学コース」

漁師町を歩きながら自然海岸までを散策するこのコースは、事前申し込みの必要はなく、当日受付で参加可能でした。17名の参加者を案内くださったのは男里川干潟を守る会の田中正視さんと三宅壽一さんです。一行はまずは尾崎漁港へ向かいました。途中で通る尾崎の古い町並は木造建築の町家も多く残されていて、何とも雰囲気があります。瓦屋根や軒先の構造など、独特の建築様式とも出会えました。一番海沿いの道まで出ると、民家の軒先や隙間に、網やタコ壷などの漁具を目にすることも増えていきます。

尾崎漁港に着くと、三宅先生がノリの養殖やタコ漁のこと、漁船の種類などについて解説してくれました。ちょうど「サワラ流し網漁船」が陸にあげられていたので、その船について特に解説いただきました。サワラの漁獲については、大阪府の7割くらいは地元である阪南市で獲れるのだとか。

尾崎漁港の北に広がる海岸へと向かいました。旧港を通って海へ出ると、昔ながらの黒い砂が残された自然海岸が広がっています。そこから北側の「男里川」まで、穏やかな浅瀬が続いています。砂浜の一部はハマヒルガオなどの群生も見られました。いよいよ雨は本降りとなってしまいましたが、海岸の漂着物を拾い集めて楽しむ「ビーチコーミング」を愛好される方が多いこともあり、しばし海岸を散策。二枚貝の他にも、丸みをおびてピカピカ光るタカラガイも落ちていまじた。最後にみんなで記念撮影して地域交流館にもどりました。(報告:北原)













阪南市の自然海岸漂着物回収処理 (H27-11/15、12/12)

箱作海岸と尾崎海岸は 11 月 15 日、西島取海岸は 12 月 12 日に海岸清掃を行ないました。釣り人及び一般に参加を呼びかけ、地元漁協と一緒に行なう事業です。日頃お世話になっている漁師さんに協力する市民が増えてくれることを願って実施しました。箱作参加者は 21 名、尾崎参加者 40 名、西島取参加者 27 名。尾崎海岸では漂着物回収場所の生物量調査も実施しました。(報告:萱間)







